



展示空間。展示棟にあり、内部回廊・外部回廊に接続する。



学習空間。展示棟にあり、展示空間の奥にある。



鈴木大拙館

思索空間棟夜景。手前は水鏡の庭。

選評

鈴木大拙館は、金沢の生誕地近くの豊かな自然が残る歴史と文化が感じられる地に、禅を世界に広めた仏教学者鈴木大拙を顕彰するために建設された記念館である。

建築は、敷地の借景を活かし、石積、水景によって金沢らしい景観をつくり、玄関棟、展示棟、思索空間棟を回廊で結んでいる。三つの棟には玄関の庭、露地の庭、水鏡の庭が配され、これらの空間を巡ることで禅や鈴木大拙の世界を表現している。禅や日本文化の根源を説いた哲学者にふさわしい空間を模索する設計であり、考え方を日本固有の「床の空間」に求め、「無の空間」として静謐な空間をつくり出している。

玄関棟から展示棟に向かう回廊は、金属パネルとコンクリート打ち放し壁に囲まれた薄明かりの空間であり、途中の三角形の空間から白砂の中にクスの古木が立つ玄関の庭を見ることができる。一方、展示棟から思索空間棟に向かう回廊は、外気に面し庇の天井パネル

と漆喰壁に囲まれた空間であり、松風閣庭園の緑を映す水鏡の庭の全景を見ることができる。この内外一対の回廊を巡り、変化する景観や光の効果により禅や鈴木大拙の世界を体験し感動を与えている。また本多の森公園の斜面緑地に沿って金沢市立中村記念美術館まで緑の小径が整備され、石川県立美術館、金沢21世紀美術館など歴史文化施設とのまちなかの回遊性に配慮している。

構造は、三つの棟と回廊に分かれ、棟ごとの高さが異なる平屋建てに庇がかかる壁式鉄筋コンクリート造とし、庇は軽快な表現とするため鉄骨造としている。思索空間棟は、他の棟と階高が異なるためエキスパンションジョイントで分離した独立の構造とし、水盤に大きく張り出した鉄骨造の庇は積雪地域でありながらも、先端がきわめて細くシャープで日本的な金属庇の表現としている。

設備は、ガス熱源の空冷ヒートポンプパッケージ方式を採用し、思索空間は、静寂を保ち過度な気流を感じさせないよう部屋の四方



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall **鈴木大拙館** ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

写真：北嶋俊活(顔写真除く)

RCe 建設業界 2016.8 46

建築主

「鈴木大拙に会い、心静かに思索できる施設」

藩政期、館の敷地を含む周辺一帯には、加賀藩筆頭家老本多家の屋敷があり、現在は、多くの歴史文化施設が集積し、都心部にありながら豊かな自然や起伏に富んだ、金沢らしい魅力のある地域である。

世界的な仏教哲学者・鈴木大拙の生家が近隣にあった大拙ゆかりのこの地に、その人となりや思想を学び、世界へ広め伝えていくため、鈴木大拙館を整備した。

館では来館者が自由かつ自然な心で大拙と出会い、そこから得た感動や心の変化を、自らの思索に繋げていくことを基本方針としている。

開館から4年が経過した今も、金沢21世紀美術館等とともに金沢を代表する施設として、国内外より大変多くの方々にご来館いただいている。今後とも、大拙に会い、心静かに思索できる施設として、多くの方々にご利用いただきたい。



金沢市
市長
山野之義
Yukiyoshi Yamano

設計者

「無の意匠」

金沢が生んだ仏教哲学者・鈴木大拙を顕彰する施設の設計を、金沢市より2009年に委託された。

設計においては、斜面緑地を背景とする金沢固有の景観の中で、「静か」「自然」「自由」など鈴木大拙の人柄に相応しい環境と、「思索」「くつろぎ」「語らい」の場を創造することを目指した。

日本文化の根源を説く哲学者に相応しい空間構成を模索する中で、私はその典型を日本建築の「床」の空間に求めた。何も存在しな

い「無の意匠」は、四季の移ろい、展示の設え、集う人々などによってその姿を変える。

建築は、建築主・設計者・施工者が一座建立の精神によって作り上げる一つのドラマである。建築主である金沢市をはじめ、施工者である清水建設及び多くの工事関係者のご支援とご協力に心から感謝する次第である。

新旧の建築が連綿と育まれている金沢の景観の中に、この建築が新しい風景の一つとして加わり、永遠と生き続けることを設計者として願っている。



谷口建築設計研究所
所長
谷口吉生
Yoshio Taniguchi

施工者

「現代の棟梁のものづくり」

鈴木大拙館を施工させていただくことが決まった際、早速谷口先生設計の「香川県立東山魁夷せとうち美術館」（香川県坂出市）に向き、見学した。先生の「一部の隙もない」という言葉通り、緻密なディテールで組立てられた建物を目の当たりにした。

「金沢らしい意匠」について、谷口先生の話を知っているうちに、コンクリート・鉄・石・木そして漆喰、それぞれの表情を高いレベルで実現することを求められていることがひしひ

しと伝わってきたものだ。

工事中、それらをいかに実現するか、素材を選び、工法を決め、職人と打ち合わせることは真のものづくりそのもので、あたかも計画のコンセプトである「識る」「学ぶ」「思索する」「語らう」を具現化したというか、大変充実した時間を過ごすことができた。

気持ちを整え、弱気を振り払い、ものづくりに向き合う日々は現代の棟梁の気持ちそのものであった。



清水建設株式会社
北陸支店
工事長
三浦正之
Masayuki Miura



思索空間棟内部。借景の紅葉が映える。



上／内部回廊。玄関棟から展示棟へ導く。玄関の庭が配されている。
下／外部回廊。展示棟から思索空間棟へ導く。水鏡の庭が配されている。

に二重壁サプライチェーンバー方式により吹き出し風速、騒音の低減を図ると共に、壁面から冷暖輻射効果による優しくやわらかい空調に配慮している。水鏡の庭の水には水質劣化の防止のため循環濾過設備を設置し、一定間隔で波紋を形成して水景を演出している。
施工は、入念な型枠の検査、きめ細かな打設作業を行い、コンクリート打ち放しおよび金物、サッシの精度を確保している。また軒の出の大きさに対して非常に薄いディテールのため鉄骨精度を確保し、庇の天井パネルの納まり精度

の向上に努めている。漆喰壁は、コンクリート躯体と断熱材の上に塗り付けるため、耐候性を確保しつつび割れしにくい材料の調査検討をモックアップで確認し、ひび割れ防止、精度を確保している。建築、構造、設備の整合性を図り、高精度で高品質な施工を行い、現代の棟梁のものづくりである。
鈴木大拙館は、地域の活性化に寄与し、建築主、設計者、施工者が一体となつてつくり出した質の高い建築として優れた作品である。
【選考委員】
小泉雅生・六鹿正治・田中隆吉

計画概要

建築主：金沢市

設計者：谷口建築設計研究所

施工者：清水建設(株)
(株)豊蔵組

所在地：石川県金沢市本多町3-4-20
竣工日：平成23年7月29日

敷地面積：3,900.13㎡
建築面積：662.00㎡
延床面積：630.80㎡

階数：地上1階
構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造